

記 入 日 2012 年 12 月 21 日

1. 概 要

実践団体名	千葉県立東金特別支援学校		
連絡先	0475-52-2542 (学校)		
プランタイトル	防災コミュニティ&コミュニケーション ～北之幸谷から山武郡市へ「防災ユニバーサルねっと」を広げよう～		
プランの対象者※1	6.大学生 8.教職員 9.保護者 10.地域住民 14.養護学校児童生徒	対象とする 災害種別※2	7. 災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

【自助】授業を通して、障害のある児童生徒に対する防災教育のポイントを探る。また、登下校や土日等における避難場所や連絡方法、引き渡しの確認等を通じて、家庭の防災意識を高めるようにする。

【共助】PTAや児童生徒会が中心となって、東金市北之幸谷区自治会と協力し、防災をテーマとした地域との交流を行い、地域と一体となって防災に対する意識を高める。

【公助】「防災ユニバーサルねっと」の構築に向けて、講演会や防災安全マップの作成、ネットワーク会議等を通じて、関係機関との情報の共有を図り連携を深める。

【プランの概要】

【自助】高等部：美術の授業で防災マルチパーティションや防災ピクトグラム、防災絵本を作成する。小中学部：ぼうさいの歌を作成し音楽の授業で取り組む。生活単元学習で防災キャンドル作り等を行う。

【共助】PTA：地域と協力し、福祉避難所をイメージした避難所開設や炊き出し訓練を行う。児童生徒会：長寿会を招いて、防災をテーマとした全校児童生徒集会を行う。

【公助】東金地域防災教育ネットワーク会議を実施する（小中高や関係機関）。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

定着と継続を考えた社会貢献型の防災教育。授業で使いながら有事の際には避難所となる体育館等で使用できる「防災マルチパーティション」や福祉避難所で利用できるピクトグラムを使ったコミュニケーションボードの作成。パーティションは、学区の幼稚園でも活用され、「防災ユニバーサルねっと」と併せて、災害時要援護者同士をつなげることができる実践。

総合的な学習の時間で、釜石東中学校が作成した「てんでんこレンジャー」を参考に防災劇を作成したり、「あたりまえ体操／COWCOW」の替え歌を作って音楽で取り組み、その歌詞に東北の言葉を加え、絵本を作成したりするユニークな実践。

2. プランの年間活動記録 (2012 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	安全教育確認研修 地区との連携 引き渡し訓練	資料作成 資料作成 情報カード作成	3 (火) 緊急事故対応や学校安全計画 15 (日) 東金市北之幸谷区定期総会 28 (土) 保護者引き渡しの確認
5 月	避難訓練 (寄宿舎)	計画案作成	5/28(月)火災 10/9(火)地震
6 月	避難訓練及び頭を守ること 実態調査 パーティション・ピクトグラム 交通安全集会 ヘルプカード推進会議 (6月～9月)	調査資料まとめ 年間計画 警察署依頼 日程調整	火災 4/24 (火)・6/27 (水) 津波 想定 of 避難訓練 選択美術でデザインの作成 児童生徒会主導による集会 10/18 の計画 計 4 回
7 月	自主通学生徒集会 東北学校訪問 スクールバス 緊急事故訓練	PPT 資料 実施計画案作成 資料作成	12 (木) 12/19 (水) 3/18 (月) 17 (火) ～19 (木) 27 (金) 緊急時の連絡系統確認
8 月	警察署・長寿会訪問 旭市飯岡訪問 防災教育講演会 東金地域防災教育ネットワ ーク会議 i 防災をテーマとした地域との交流 I	依頼 日程調整 依頼 日程計画 依頼 資料準備 関係者連絡調整 資料準備 関係者打合せ	1 (水) 公民館で昔話 危険個所 2 (木) 飯岡中学校 仮設住宅 22 (水) 地震・家庭の防災教育 22 (水) 設立の趣旨説明 各機関 の課題等 専門家からの講評 25 (土) 炊き出し 避難所開設
9 月	防災をテーマとした地域との交流 II	依頼 日程調整	24 (月) 城西国際大学と交流
10 月	防災をテーマとした地域との交流 III 災害時要援護者の避難を考 える講演会 「あたりまえ体操/COWC OW」ぼうさい編♪の替え歌作 成と歌詞を使った絵本作り	依頼 日程調整 資料作り、講師依 頼、打合せ会議 使用許諾申請 コンクール申込	5 (金) 長寿会と避難グッズ探し 18 (木) 行政、福祉、各障害者等 の団体、親の会 あたりまえ体操の替え歌作り 絵本のイラスト作り
11 月	学校祭で東北の特別支援学校 作品・資料の展示 幼稚園サイズパーティション作成	資料作成 学校 へのお礼 材料の注文等	17 (土) 玄関の展示スペースに作 業学習等の展示 廊下に掲示 美術の計画による
12 月	防災をテーマとした地域との交流 IV	関係者打合せ	18 (火) 仮設住宅シスターズと地 域の長寿会と高等部 3 年の交流
1 月	東金地域防災教育ネットワ ーク会議 ii	資料作成 関係 者への連絡	29 (火) 各校の課題確認 元禄地 震の知識 まち comi (企業) 連携
2、3 月	次年度に向けて	資料作成	校内組織見直し 関係機関へのお礼

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： ①自助・職員】※3

タイトル	安全教育確認研修、引き渡し訓練、火災・地震津波避難訓練 等
実施月日（曜日）	4/3（火）安全教育研修 4/28（土）引き渡し 4/24（火）火災 6/27（水）地震・津波 寄宿舎：5/28（月）火災 10/9（火）地震
実施場所	東金特別支援学校 3F教室及びグラウンド 寄宿舎 など
担当者または講師	担当者・講師等の区分：安全担当者 氏名：市川 伯人（防災・安全） 各分掌担当者の協力
所要時間または「コマ数×単位時間」	6回×45分
プログラムのカテゴリ、形式※4	避難・防災訓練
活動目的※5	災害を想定した訓練
達成目標	大津波警報を想定した二次避難を含めた、避難訓練を計画、実施し、マニュアル等の見直しをする。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画案の作成（津波については、災害状況の設定をしてから検討する。 ・車椅子を運ぶ職員研修を取り入れるようにする。 ・児童生徒が安全に安心して避難できるように、職員のシュミレーションは始業式の前に実施する。また、各訓練は、できるだけ早い時期に実施するようにする。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	災害時情報カード（引き渡し） トランシーバー 車椅子（職員研修） 緊急地震速報（音源）
参加人数	260名（生徒160 職員100）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】大津波を想定した避難訓練は二年目であったが、災害状況の設定をしたことで、スムーズに実施することができた。反省は、紙では行わず、その日のうちに話し合うようにしたことで、緊張感をもったまま反省をすることができた。</p> <p>【課題】車椅子を安全に（児童生徒は安心して）運ぶための方法が状況によって変わることがあり、継続的に行っていく必要がある。</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ②自助・共助・公助】※3

タイトル	防災教育講演会
実施月日（曜日）	8 / 22（水）
実施場所	東金特別支援学校 食堂
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏名：国崎信江さん 所属・役職等：危機管理アドバイザー 氏名：大木聖子さん 所属：東京大学地震研究所 東北の学校訪問報告 担当者：生徒会生徒2名 瀧川 猛
所要時間または「コマ数×単位時間」	140分
プログラムのカテゴリ、形式※4	講演会・学習会
活動目的※5	防災に関する知識を深める 災害に強い地域を作る
達成目標	地震に関する知識を深め、家庭や学校における防災教育について考える機会とする
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	講師依頼と講演内容の打合せ 会場・受付の準備 生徒会掲示物作成 作業製品展示準備 生徒発表準備（PPT） 資料印刷
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	会場受付準備 看板・案内表示 生徒会掲示物展示のためのパネル準備 講師2名 本校生徒会の学校訪問発表者2名 地域・一般（行政、福祉、教育）78名 本校職員・保護者・生徒 95名
参加人数	173名
経費の総額・内訳概要	40,000円（講師謝金）
成果と課題	【成果】行政、教育、福祉、地域の方等、多くの方に参加していただくことができた。最新の知見を学ぶことができた。 【課題】会場の関係で、一般への広報はしなかった。会場が変わらないのであれば、講演の内容によって広報の仕方を検討する必要がある。
成果物	講演資料、掲示物

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ③公助】※3

タイトル	東金地域防災教育ネットワーク会議 i、ii
実施月日（曜日）	8月22日（水）1月29日（火）
実施場所	東金特別支援学校 会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：遠山一郎（教頭） 瀧川猛（地域支援・防災教育担当）
所要時間または「コマ数×単位時間」	90分1回目 120分×1回目 計2回
プログラムのカテゴリ、形式※4	教育と福祉・行政の関係機関の担当者会議
活動目的※5	災害に強い地域を作る
達成目標	各関係機関の連携強化
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	各校の防災教育の取り組みについて紹介し合う。 関係機関で抱えている課題について意見交換をする。 専門家の話や最新事例の紹介をして、今後の防災教育についての示唆を得る。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	山武地域振興事務所（県行政） 東上総教育事務所（県教育委員会） 東金市総務課消防安全係 東金市教育委員会 東金市社会福祉協議会 東金市内小学校・中学校・高等学校（16） 本校職員6名 1回目は 危機管理教育研究所の国崎信江氏にアドバイザー事業として参加していただいた 東大地震研：大木聖子氏も参加 2回目は学区の幼稚園代表と城西国際大学 地元災害史に詳しい古山豊氏 まちcomi 担当者からの事例紹介を加えた
参加人数	1回目：29名 2回目：31名
経費の総額・内訳概要	（飲料代PTAより500円）
成果と課題	【成果】各学校や関係機関で抱えている問題や意見から、本地域の防災教育の在り方について意見交換をすることができた。各学校や関係機関の顔つなぎをすることができた。 【課題】それぞれの立場から意見は出るものの、具体的な提案まではなされず、連携の具体化をしていくことが課題として残った。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ④共助・公助】※3

タイトル	災害時要援護者の避難を考える講演会とグループワーク
実施月日（曜日）	10月18日（木）
実施場所	山武健康福祉センター（保健所）
担当者または講師	担当者・講師 講師Ⅰ 全国特別支援学校知的障害教育校 PTA 連合会 石塚由江さん 講師Ⅱ 認知症の人と家族の会 合江みゆき さん 担当 氏名：瀧川 猛（地域支援部長）
所要時間または「コマ数×単位時間」	4時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	講演会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	その他 災害時要援護者の避難を考える
達成目標	災害時要援護者の避難について、自助、共助、公助の視点から、それぞれの立場でできることについて考える。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	ヘルプカード推進会議（6月～9月）として準備会を実施。 講師決定、依頼 内容、会場の決定 名簿作成 資料作り 会場準備 講師御礼
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	◎主催団体 山武保健所（保健所 課長） 山武地域自立支援協議会（エリアネット所長） 東金特別支援学校（地域支援部長） ○参加団体（個人） 幼稚園 大学（福祉） 特別支援学校 市役所（総務課 福祉課） 広域行政 広域の保健所 社会福祉協議会 各障害者団体（自閉症 身体障害者 精神障害者など） 親の会 視覚障害者本人など
参加人数	57名（26団体）
経費の総額・内訳概要	講師謝金 湯茶（自立支援協議会より）
成果と課題	【成果】医療や障害と分野や介護の内容は異なるが、考える視点や悩みはとても似ていることが分かった。何かを決める、何かを作るという明確な形でなく、話をするテーブルを作れたことが大きな収穫である。 【課題】三者の共催という形で行ったが、今後、次年度の継続した形を作ること。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。


【実践プログラム番号： ⑤自助・生徒】 ※3

タイトル	防災マルチパーティション・ピクトグラムの作成 ※幼稚園児サイズ
実施月日（曜日）	毎週水曜日の選択美術の授業
実施場所	東金特別支援学校 高等部作業室等
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：岩井聖典 石橋雄嗣（美術教諭）デザイン等 瀧川 猛（技術教諭）材料加工等
所要時間または「コマ数×単位時間」	20 コマ×40 分
プログラムのカテゴリ、形式※4	教科学習
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	パーティション等の作成を通して社会貢献型の防災意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	材料の検討 デザインの検討 色の検討 デザインや色については、避難所になった時に、安心して落ち着いて過ごせることを意識しながら、生徒と一緒に考え作成していく。生徒の能力（障害の重い軽い）に合わせて、できる活動を分担して作成していく。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	布、木材、プラスチック段ボール ブックエンド（脚） アクリル絵の具（塗料） 自閉症スペクトラム児等の生徒が国語数学等の授業で落ち着いて学習するために使用するサイズに合わせて作成。 ※幼稚園児がままごと遊び等をしながらか、教師が上から確認できるサイズで作成する。（チャレンジプラン入門枠の九十九里町片貝幼稚園へ） 材質は3種類を使用し、収納、運びやすさ、有事の際の転用（布）を意識して作成した。
参加人数	高等部選択美術生徒・職員 2 4 名
経費の総額・内訳概要	円（プラ段、両面テープ、塗料等）
成果と課題	【成果】自分たちが作ったものが、有事の際には地域や皆のために役立つという意識を持って作成することができた。災害時に安心できる色やデザインを考えることで優しさや思いやりの気持ちを深めることができた。 【課題】軽量化や独立させるための材料や脚の工夫を更に検討する。
成果物	・防災マルチパーティション（幼稚園サイズ） ・福祉避難所で利用することを想定したピクトグラムを使ったコミュニケーションカード

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑥自助・生徒】※3

タイトル	「あたりまえ防災／COWCOW」替え歌作成と 歌詞を使った絵本作り
実施月日（曜日）	絵本：10月22日（月）～11月28日（水）の国語数学の時間 替え歌：12からの音楽で小学部・中学部が導入で替え歌を実施 高等部の自主通学生徒集会でも実施
実施場所	教室（絵本作成：高等部代表生徒） 替え歌実施（音楽室：小中学部 会議室：高等部）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：近藤加奈子（音楽担当） 秋庭美保（学級担任：絵本作成） 田中京子（小学部主事） 脇田裕文（中学部主事） 瀧川 猛（高等部主事）
所要時間または 「コマ数×単位時間」	30分×7日（絵本作成） 歌詞は職員が作成 12月からの音楽の導入 5分×週1回
プログラムの カテゴリ、形式※4	教科学習
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	親しみやすい音楽で楽しみながら防災の知識を身につける
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	「替え歌」 使用の許諾を得る（株式会社吉本音楽出版及びCOWCOW） 替え歌を作成し、内容について専門家の確認をとる 楽譜を@エリーゼより購入し使用する 振り付けは各学部で考え行う 「絵本」分担して共同作品を作る 歌詞に基づいたイラストを描く（生徒） イラストの色塗りをする（生徒） 歌詞の文字部分を書く（生徒） 製本しコンクールに出品する（職員）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	「替え歌」株式会社吉本音楽出版及び関係者 音楽科職員
参加人数	絵本作成 高等部5名 替え歌 高等部自主通学生徒40名 小中学部児童生徒75名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】児童生徒が楽しみながら、継続的に行える活動となった。 【課題】音楽は、どの授業や行事で活用すると、より効果的かを検討する。絵本作りは教育課程に入れることを検討する。
成果物	「あたりまえ体操／COWCOW」替え歌 ぼうさい絵本

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑦自助・生徒】※3

タイトル	キャンドルの明かりで非常食を食べてみよう
実施月日（曜日）	12 / 11（火）
実施場所	東金特別支援学校中学部教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：遠藤 麻理子 所属・役職等：中学部教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	70分
プログラムのカテゴリ、形式※4	教科活動（中学部 生活単元学習）
活動目的※5	災害を疑似体験
達成目標	被災したことを想定して、キャンドルの明かりのみで非常食を食べることができる。
実践方法・進め方（簡条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンドルのデザインを考える ・材料の買い出しに行く ・キャンドルを作る ・暗幕で教室を暗くし、停電時の暮らしを想像できるようにする。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	蠟及び燭を入れる型 暗幕 非常食
参加人数	18名（生徒12名 教師6名）
経費の総額・内訳概要	材料費生徒一人約1,000円（個人徴収）
成果と課題	<p>【成果】自分で作ったキャンドルを使用したことで、落ちついて参加することができた。また、体験を通して防災に対する関心も高まった。</p> <p>【課題】中学部3年の生徒が取り組んだが、次年度にどのように教育課程に位置付けていくかが課題となる。</p>
成果物	掲示物

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑧自助・生徒】※3

タイトル	防災クイズ 防災安全マップ
実施月日（曜日）	10/1（月）～12/12（火）
実施場所	東金特別支援学校 コンピュータ室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：伊藤大介（高等部情報担当）
所要時間または「コマ数×単位時間」	12時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	教科活動（高等部 選択情報）
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	クイズや防災安全マップの作成をとおして、防災に関する知識を得るとともに、作成にかかわることで意欲を高める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	インターネットや書籍から情報を得て問題を作成した（備えて編、地震が起きたら編） 応用編については防災教育担当からアドバイスを受け、他校の事例を参考に、本校用に作り変えた。 E 防災マップコンテストの応募をした
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・関係機関から配布される資料やインターネットから得られる情報の集約。 ・タッチパネルのPC ・PPT資料
参加人数	高等部選択情報 生徒16名 職員5名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】クイズでは、音声に生徒の声を使ったことで、意欲的に取り組む姿が見られた。マップ作りでは、自分の家の近くの避難所等を確認できたことで、意欲的に取り組むことができた。 【課題】選択教科で取り組んだことから、他の生徒にどのように般化してくか。
成果物	PPTによる防災クイズ 学区の地域ごとの防災安全マップ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑨自助・生徒】※3

タイトル	防災劇（ビデオ劇）
実施月日（曜日）	5月25日（金）～1月25日（金）
実施場所	高等部教室及びグラウンド
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏名：秋庭美保（高等部）
所要時間または「コマ数×単位時間」	12時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	教科学習（高等部 総合的な学習の時間）
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	防災劇の作成を通して、防災に関する意識を高める。 発表会で、映像を楽しみながら学部生徒が知識を深める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・釜石東中学校が作成した てんでんこレンジャーを観る ・シナリオ作り ・台詞読み合わせ ・大道具、小道具の準備 ・撮影
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ビデオカメラ シナリオ 防災グッズ
参加人数	生徒5名 職員2名 計7名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】演劇グループでは昨年度、東北パフェで仮装大賞を目指し、今年度は釜石東中学校の作品を参考に防災劇を作成した。子どもたちの余暇活動につながるものとして、意欲的に取り組むことができた。</p> <p>【課題】生徒のグループ構成によって、取り組む内容が多岐に及び、積み重ねの実践になりにくい。</p>
成果物	防災劇DVD

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑩自助・生徒】※3

タイトル	自主通学生徒集会（計3回）
実施月日（曜日）	7/12（木）、12/19（水）、3/18（月）
実施場所	東金特別支援学校 会議室 体育館 3F教室 グラウンド 等
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：石橋雄嗣（高等部担任） 氏名：瀧川 猛（高等部主事）
所要時間または「コマ数×単位時間」	各 45分
プログラムのカテゴリ、形式※4	避難防災訓練 高等部自主通学生徒集会
活動目的※5	災害対応能力の育成 防災に関する知識を深める
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・災害から自分の身を守るために必要なことを覚え、考え、行動することができる。 ・自分の言葉や表現で、意見を発表することができる。 ・他者の意見を尊重し、自分の行動に生かすことができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報を聞き、一次避難（地震）、二次避難（津波）について、自分たちで考えて行動し、避難行動をし、評価し合う。 ・通学方法別に学年縦割りでグループを編成し、震災時を思い出しながらブレインストーミングをしたり、具体的な場面設定（長期休業中の生活に関連させる）でロールプレイングをしたりすることで、緊急時に自分で自分の身を守るための方法や、必要となるコミュニケーションについて学べるようにする。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	緊急地震速報音源 PPT映像資料 音響・映像機器
参加人数	55名（高等部生徒45 職員10）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】自主通学生は、一人であるいは生徒同士で登校や下校をしている時に災害等にあう可能性がある。いろいろな人の考えや過去の事例からどのように行動したかを知ったことで、その知識を自分たちの生活に生かし、連絡ができるようになった。</p> <p>【課題】自立活動で扱うか特別活動で扱うか等、教育課程への位置付けが必要である。</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑪共助】※3

タイトル	防災をテーマとした地域との交流 I
実施月日（曜日）	8月25日（土）
実施場所	本校 体育館・教室・グラウンド
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏名：PTA厚生部長 谷上泰子 厚生部学校担当 瀧川 猛
所要時間または「コマ数×単位時間」	事前準備2時間 当日3時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	災害に強い地域をつくる
達成目標	炊き出しや避難所開設、消防団の演技見学を通して地域との交流を深める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	地域・学校の資源確認（釜、薪、米 等） 関係機関及び担当者との連絡調整 炊き出しの事前練習 役割分担
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	地域から借りた釜 米 薪 テント 遊具（室内） 椅子やテーブルとなるコンテナ 保存食用のカレー 地域の子供会・ボランティア部会・長寿会 PTA（保護者及び児童生徒） 教職員 市役所総務課及び地域の消防団
参加人数	126名
経費の総額・内訳概要	（PTAよりカレー代等 約15000円）
成果と課題	【成果】学校や地域の資源を確認することができた。給食の米を備蓄する計画にするきっかけとなった。 【課題】初のPTA主催ということで実施したが、担当の保護者は毎年変わるため引き継ぎをしっかりとすることが大切である。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： ⑫共助 】 ※3

タイトル	防災をテーマとした地域との交流Ⅱ
実施月日（曜日）	9月24日（月）
実施場所	寄宿舎ホール
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏名：日下部友洋（寄宿舎指導員）瀧川 猛（地域支援）
所要時間または「コマ数×単位時間」	50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	避難・防災訓練 遊び・楽しみながらの防災
活動目的※5	災害疑似体験 災害対応能力の育成 災害に強い地域を作る
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎生徒の自治会組織が主催をすることで、自主防災の意識を高める。 ・寄宿舎について地域の方々に知っていただく。 ・防災への関心を高める。 ・東北の学校訪問（寄宿舎がある花巻清風支援学校を多く）報告を聞き復興状況を知る
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	大学及び学生との打合せ ボランティア部会との連絡と打合せ 寄宿舎生徒の生活が乱れない時間の設定や内容の検討（眠れなくなること等がないように） 寄宿舎：暗闇体験の準備 自治会組織の役割分担や司会原稿準備 地域支援：大学生手話サークルの発表準備
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	消灯訓練のため避難誘導等にカバーをかける 東北の学校訪問の報告に必要な映像機器 生徒の原稿 城西国際大学総合福祉学部職員と学生サークル 北之幸谷区ボランティア部会
参加人数	45名（生徒24 地域大学生5 ボランティア部会6 職員10）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】 寄宿舎生が暗闇の中で行動する時に気を付けること等について学ぶことができた。地域の方や大学生と交流を深めることができた。準備から大学生に来ていただいたことで、主旨説明等をしっかりと行うことができ、積極的な活動につながった。</p> <p>【課題】 2年目となり定着はしてきたが、年度によって内容が異なっているため、継続できるような内容にしていけるとよい。</p>
成果物	学校訪問報告（PPT資料）

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑬共助】※3

タイトル	防災をテーマとした地域との交流Ⅲ
実施月日（曜日）	10月5日（金）
実施場所	東金特別支援学校 体育館及び各教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：秋庭美保（生徒会） 瀧川 猛（地域支援）
所要時間または「コマ数×単位時間」	50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	避難・防災訓練 イベント・行事
活動目的※5	災害対応能力の育成 遊び・楽しみながらの防災 災害に強い地域を作る
達成目標	・北之幸谷区の長寿会、ボランティア部会との交流を図る。 ・防災について考える機会とする。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	児童生徒は姉妹学級の活動をする（縦割り） 姉妹学級グループに長寿会とボランティア部会が分かれて入る お互いが名札を付けて自己紹介をする 指示書に従って防災関連グッズを探しに行く（校内探索） 途中で緊急地震速報が流れる（どう行動したかを発表）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	緊急地震速報の音源と音響機器 防災に関わるグッズ（懐中電灯、ラジオ、ロープ、非常食 等） グッズを校内に探しに行くための指示書
参加人数	243名 （長寿会10 ボランティア部会3 生徒160 職員70）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】二年目となり、児童生徒会も主体的に活動できる場面が増えた。緊急地震速報が流れた時も、二次避難まで考え行動したグループがあった。地域との交流を深めることができた。 【課題】地域との連絡や調整を主に担当者が一人で行ったが、継続を考え組織でできるようにしていくこと。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑭共助】※3

タイトル	防災をテーマとした地域との交流IV
実施月日（曜日）	12月18日（火）
実施場所	北之幸谷区公民館（地域の公民館）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏名：瀧川 猛（地域支援）
所要時間または「コマ数×単位時間」	3時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	災害に強い地域をつくる
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿会、旭飯岡（仮設住宅）のシスターズ&ボーイズ、本校高等部生徒の3者の交流を図る ・仮設住宅のシスターズの話聞いて、災害について考える機会とする。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・城西国際大学の先生経由で飯岡、旭のシスターズたちとの日程調整をする。 ・長寿会と区長に確認し公民館の借用をし、内容の確認をする。 ・司会進行をする生徒たちの練習をする。 ・歌やダンス等の発表練習をする。 ・実施後にお礼の手紙を書く。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	城西国際大学の職員等のボランティアと仮設住宅のシスターズ&ボーイズ10名 地域の長寿会10名、ボランティア部会3名 本校児童生徒職員 45名
参加人数	68名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】 公民館を利用したことで長寿会の踊りの発表をする場をつくることができた。旭、飯岡のシスターズたちが交流する場をつくることができた。本校の生徒が地域に出て交流をする機会をつくることができた。</p> <p>【課題】 単発の活動にならないように、公民館を使って交流をする機会を考えていく（災害時の介護研修など）。</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑮自助】※3

タイトル	旭・飯岡訪問
実施月日（曜日）	8月2日（木）
実施場所	飯岡中学校 旭市飯岡仮設住宅
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：秋庭美保（児童生徒会） 瀧川 猛（地域支援）
所要時間または「コマ数×単位時間」	8時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	校外学習・移動教室
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の職員や仮設住宅の方々との交流を図る。 ・ 自然災害や復興について考える機会とする。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先方との日程調整 ・ 訪問の許可や依頼文の作成 ・ 訪問日程 質問事項や交流内容の検討 ・ 昼食場所の確認（復興どんぶりがある店） ・ スクールバス担当等との確認 ・ 事前、事後学習（掲示物作成）
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	旭市立飯岡中学校 教務主任 城西国際大学福祉総合学部（定期的な仮設住宅訪問） お礼の作業学習製品
参加人数	小学部児童1名 高等部生徒会4名 職員7名 計12名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】生徒の感想より「仮設住宅は、部屋は7畳半で予想よりちょっと広がった。冬はすごく寒いし、夏になれば虫や蛙が入ってくる話を聞いて暮らすのに大変だなと思いました。」「飯岡中学校では、校舎の壁に津波の跡があり、腰ぐらいあって本当にビックリしました。それと津波のせいで駐輪場が壊れたりロッカーにさびがはえてたりしていました。僕は、これを見て聞いて本当の地震 津波の怖さ 恐ろしさを知りました。</p> <p>【課題】生徒会役員は3年生が多く、生徒同士の次年度への引き継ぎをうまくすること。</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑩自助】※3

タイトル	宮城・岩手県の特別支援学校等の訪問
実施月日（曜日）	7月17日（火）～19日（木）
実施場所	岩手県 宮古恵風支援学校 釜石祥雲支援学校 花巻清風支援学校 釜石市立東中学校（昨年度チャレンジプランの仲間） 宮城県 石巻支援学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：瀧川 猛（高等部主事）
所要時間または「コマ数×単位時間」	事前事後学習 計4時間 訪問 2泊3日
プログラムのカテゴリ、形式※4	校外学習・移動教室
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 各学校の生徒や職員との交流を図る。 自然災害や復興について考える機会とする。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> 電話にて訪問の依頼 文書にて正式依頼 担当者との打合せ 交通手段の確認（公共の交通機関が使えない地域についてタクシーの手配） 旅行保険の加入 保護者の承諾 宿舎の手配 切符の購入 旅行計画書の県教育委員会への届け出 質問事項の作成と送付 ・手土産の準備（作業製品） お礼の手紙 報告資料作成 講演会にて報告
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> 花巻温泉旅行課 保険業者 訪問学校についての資料 訪問先の地図 旅行ガイド
参加人数	生徒会代表2名 職員1名 計3名
経費の総額・内訳概要	1人あたり 約60,000円 （内訳）交通費 41,000円 宿泊費（2泊分）16,000円 昼食代3日分、朝食代2日分 2,500円 保険料 500円
成果と課題	<p>【成果】生徒の感想から「津波・地震の恐ろしさが分かったので、学校や家族、近所の人たちに伝えたい。発電機の備えやスクールバスの避難訓練など、自分たちの学校で生かしていけるとよい。通学時に地震があった時にはリュックやかばんで頭を守りたい。」実際に生徒の目線で見えて聞いて感じたことを、様々な発表の機会で言うことができた。</p> <p>【課題】訪問した生徒が3年生であったため、後輩たちにどのように残していくか。</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑰共助】※3

タイトル	学区の片貝幼稚園（チャレンジプラン入門枠）との連携
実施月日（曜日）	7月 8月 10月 11月 12月 1月
実施場所	片貝幼稚園 東金特別支援学校 東京都幼稚園
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：矢野 貴美子（片貝幼稚園園長） 氏名：瀧川 猛（東金特別支援学校）
所要時間または「コマ数×単位時間」	7月幼稚園訪問 1時間 8月ネットワーク会議参加 1時間 10月災害時要援護者の避難を考える講演会参加 3時間 11月都内幼稚園訪問 5時間 12月パーティション、歌の打合せ 1時間 1月ネットワーク会議参加 1時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	その他 防災ユニバーサルねっとの構築に向け学区との連携
活動目的※5	災害に強い地域をつくる
達成目標	防災ユニバーサルねっとの構築に向けて、学区の教育機関との連携（災害時要援護者）を図る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	訪問をしいて課題の確認 各イベントへの紹介と依頼 活動の類似性の確認と協力できることの検討 幼稚園サイズのパーティションの作成 防災歌の提供
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	各関係資料 パーティション材料 防災歌の歌詞
参加人数	2人
経費の総額・内訳概要	旅費（各機関より）
成果と課題	【成果】ヨコの連携を広げることができた。災害時要援護者の共通する課題を明確にすることができた。 【課題】担当者が変わってしまったときの引き継ぎ。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑩公助・啓発】※3

タイトル	頭を守ること実態調査、災害時要援護者登録及びヘルプカード所持率調査、九十九里版津波避難ガイドライン・指導資料及び防災教育年間指導計画（千葉県学校教育委員会、文部科学省）・教育雑誌（明治図書、東洋館出版）・書籍（ジアース）作成の協力、講演（災害対策コーディネーター講座、岡山県防災教育講演会など）協力など
実施月日（曜日）	24年3月～4月 7月～8月 10月～12月
実施場所	山武地域振興事務所 山武市役所 岡山県立岡山南支援学校 東金特別支援学校 など
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏 名：瀧川 猛（教諭）
所要時間または「コマ数×単位時間」	およそ60時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	研究
活動目的※5	その他 目的に応じた活動のまとめ
達成目標	実践の啓発を図る
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	○各避難訓練の様子から、質問形式で調査をしてみとめる。 ○全国の取り組みを参考に独自のものを作成する。 九十九里版津波避難ガイドラインの教育及び災害時要援護者記載部分 ヘルプカードの作成（カード名刺大 A5ファイル大） ○依頼にしたがった形で実践のまとめをし、提出する。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	河北新報の記事（東日本大震災関連） 災害時要援護者関連記事と先進的取り組み PPT資料
参加人数	調査・児童生徒160人と家庭
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 実践からヘルメットの必要性が提案された。知識及び行動として頭を守ることや避難について繰り返し学習することが大切である。本校の実践をまとめ、災害時要援護者の問題等を含めて啓発するきっかけとなった。 【課題】 分掌上における防災教育の位置付けと、学校組織で分担して取り組むこと。
成果物	各資料

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>授業を始めとした校内の実践と地域との交流は、できるだけ内容を変えずに定着を図るように心がけた。パーティション作成の美術では、主担当が人事異動で他校に移ることになり、スムーズな引き継ぎができるよう資料を多く残してもらったことで、新たなデザインで作成することもできた。地域との交流では、地域の核となるボランティア部会の会長と連絡を密に取るようにしたことで、スムーズに準備を進めることができた。アウトリーチの視点で地域に出向いていくようにしたことで、信頼を得ることができたと感じる。</p> <p>形が見えにくい、防災ユニバーサルねっこの構築では、学校長から東金地域の防災教育担当者による、小中高等学校の実務者会議が提案され、設置要項を作成したことで、継続の目途が立った。また、有志で集まり話し合いを継続した、ヘルプカードの推進と災害時要援護者同士をつなぐことを目的とした会議では、講演会とグループワークという形で多くの関係者を集めることができた。地域の社会福祉協議会をまきこみ、災害時の介護等をテーマに各地に広まるよう、今後も話し合いを続けていくが、各担当者は自分の仕事の時間を削っての取り組みとなっているので、協力者を広げることが課題である。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>最小限の予算で計画を立てていくことが、各担当者にとっては苦勞した点であるが、予算がない中でも、各担当が工夫を凝らし活動に取り組むことができた。パーティションでは端材が幼稚園サイズになることも分かり、一人ひとり、一つひとつを大切にした防災教育の実践をすることができたと感じる。</p> <p>担当者が多岐にわたる活動では、それぞれの担当者との連絡調整が大変であった。地区との連絡は郵便及び訪問が主になり、担当者の時間を作ることが大変であったが、メールを有効活用して実践できるものもあった。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>二年目ということで、継続性とオリジナル性について悩みながらの一年間となったが、いろいろなものがつながり、新たなアイデアも創出された。</p> <p>東日本大震災から時間も経ち、職員の意識が薄まりつつある中で、協力を得にくいところもあったが、児童生徒会を中心とした活動を広げ、PTAが主となる取り組みを作ったり、新たな教科活動（音楽：あたりまえ体操／COWCOW ぼうさい編♪や選択情報の防災クイズ）を加えたことで、多くの職員が活動に加わることとなり、それに引っ張られるように職員の意識を維持できたと感じる。</p>

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	千葉県教育委員会 東金市教育委員会 東金市内中学校 東金市内小学校 東金市内高等学校 九十九里町片貝幼稚園 城西国際大学福祉総合学部 東親会・青年学級	東金地域防災教育ネット ワーク会議 災害時要援護者の避難 を考える講演会
保護者・ PTAの組織	東金特別支援学校PTA	引き渡し訓練 防災教育講演会 災害時要援護者の避難 を考える講演
地域組織	東金市北之幸谷区自治会 北之幸谷区子供会 北之幸谷区長寿会	防災をテーマとした地 域との交流
国・地方公共団体・ 公共施設	千葉県山武地域振興事務所 東金市（総務課 社会福祉課 など） 東金警察署 東金市消防署 東金市消防団	防災安全マップ作成 避難訓練 東金地域防災教育ネッ トワーク会議 災害時要援護者の避難 を考える講演会
企業・ 産業関連の組合等	ドリームエリア株式会社（まちcomi）	情報配信メールサービ ス（ユニバーサルねっと 構築に向けての助言） 東金地域防災教育ネッ トワーク会議
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	北之幸谷区ボランティア部会 嶺南地区社会福祉協議会 東金市社会福祉協議会 山武市社会福祉協議会 大網白里町社会福祉協議会 山武圏域地域自立支援協議会 中核地域生活支援センター 山武郡市自閉症協会 山武郡市手をつなぐ親の会	防災をテーマとした地 域との交流 防災教育講演会 災害時要援護者の避難 を考える講演会 東金地域防災教育ネッ トワーク会議
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	大網白里町郷土史研究会	東金地域防災教育ネッ トワーク会議

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>【自助】避難訓練後に頭を守ることの実態調査を行い、実践を振り返る中で、防災頭巾ではなくヘルメットの方が有効であることが指摘され、車椅子にはヘルメットが備え付けられるようになった。実践の反省から職員の主体的な取り組みとしてヘルメットを備えることになったことは、防災教育の大きな成果である。</p> <p>【共助】児童生徒会が主催となって行っている全校集会に長寿会を招いて、防災をテーマとした地域との交流を行った。小学部と高等部が手をつなぎ、長寿会の方と本校の児童生徒が手をつなぐ。緊急地震速報が流れると、廊下や階段にいたグループは、その場にしゃがんで頭を守る。高等部の生徒が小学部の生徒の頭を押さえながら自分の頭も守ろうとする姿があった。防災をテーマとした地域との交流から、共助の姿を見ることができた。</p> <p>【公助】「防災ユニバーサルねっと」として、東金地域防災教育ネットワーク会議を立ち上げることができた。また、災害時要援護者の支援ネットワーク会議を有志で継続的に開催し形になってきた。</p> <p>【コミュニケーション】文書での交流やお知らせではなく、お互いの顔を合わせ、名前を覚えてイベントを行ったり会議を開いたりすることで地域の輪が広がり深まった。パーティションの作成は自助から共助にもなり、共助のつながりが公助も巻き込む結果となった。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>災害時要援護の支援については、自治体や地域によって取り組みが大きく異なることが分かった。受授力を高めるための自助の推進、地域のつながりを高める共助の取り組み、そして、公助のしくみ作り等がうまくかみ合わないと進まないと感じる。それらをつなぐ防災教育コーディネーターのような存在が必要である。</p> <p>本校の実践は多方面から評価を得ることができたが、備蓄や非構造部材の耐震など、不完全な部分も多い。学校安全の視点を踏まえた継続的な防災教育の取り組みが必要である。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>【自助】日々の授業や行事をユニバーサルな視点で見直し、「わかる」「できる」「どの子も居場所がある」学校生活のユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくりの実践にチャレンジする。</p> <p>【共助】防災をテーマとした地域との交流を、児童生徒会（3年目）やPTA（2年目）が中心となって行う。</p> <p>【公助】命と健康を守る防災教育に向けて、ユニバーサルな視点で関係機関をつなぐ「防災ユニバーサルねっと」の継続と定着を図る。</p>

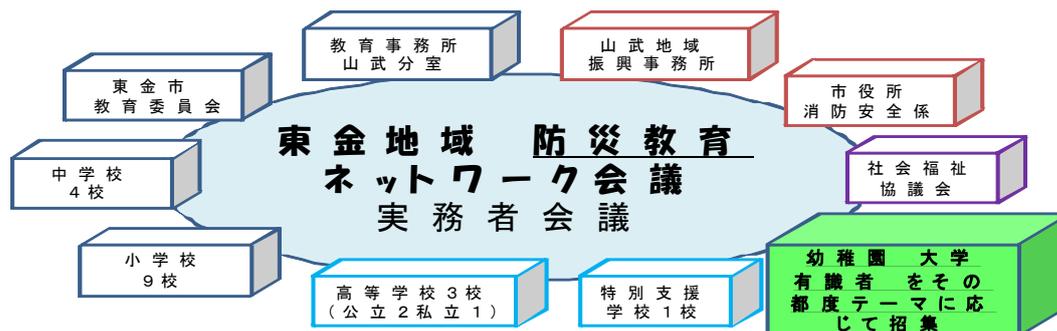


7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

公助の視点で【「防災ユニバーサルねっと」の具現化①】 8月と1月

各関係機関の
防災担当者が集まり情報交換をし
地域の防災教育のレベルアップを図る



【「防災ユニバーサルねっと」の具現化②】

○災害時要援護者の支援ネットワーク会議（発足当初はヘルプカード推進会議：定例会）から災害時要援護者の避難を考える講演会とグループ討議の実施へ（10月）

・認知症の人と家族の会（感想）

「障害者の家族会の方とお話する中で、分野や介護の内容は違うけれども、考える視点や悩みはとても似ていました。他の分野の方と話せることで発見もできました。ありがとうございました。」

共助の視点で【防災をテーマとした地域との交流】

○長寿会の方からの感想（10月）

「繰り返して体で覚えなければならない。ずっと続けてほしい。テレビでも近々地震が来ると言っていた。肝に銘じて練習してほしい。」

○PTAが主催となった取り組み（8月）

- ・消防団から「暑い日の避難でタオルとか帽子を持ってくることは大事です。自助・共助の取り組みはすばらしい。」
- ・保護者から「いざという時は要援護者となるが、地域に知ってもらっていると、安心する。」



(自由記述: 1/3)



1. 17防災未来賞 ぼうさい甲子園 高校生部門「奨励賞」

自助の視点で【児童生徒会を中心にした取り組み】

○警察署との連携（6月 8月）

- ・防災安全マップ作成のための情報収集で、千葉県警察から情報提供されている不審者情報、交通事故発生、犯罪発生マップ等

○長寿会と公民館で交流（8月）

- ・東方沖地震の時の話 学校がある場所は沼だったこと
- ・全校集会の招待状を渡して「お願いします！！」

○旭市飯岡の訪問（千葉県の被災）8月

- ・昨年度は津波の供養碑を見学したが、今年度は津波の被害が大きかった旭市を見学しようと話し合いから意見が
- ・山のようにがれきがあつた場所（飯岡漁港）
- ・飯岡中学校 校舎の1階や体育館などが津波被害 3 / 1 5 の卒業式が延期 皆の協力で18日に実施
- ・仮設住宅の状況 ・復興どんぶりを食べよう



<昨年 先生が撮影>

<今は きれいに>

<復興どんぶり！>

<旭・飯岡のシスターズ&ボーイズと仮設住宅の集会所で交流作業学習で作った花をプレゼント>



○代表生徒で岩手県・宮城県の学校訪問（7月）



世界中から
たくさんの
応援メッセ
ージが届い
ていました



(自由記述: 2/3)

【音楽の授業で楽しく歌って♪踊って♪東北の言葉を歌詞に♪♪】

「あたりまえ体操／COWCOW」ぼうさい編♪

あたりまえー あたりまえー あたりまえぼうさい♪♪
 地震のときはー「だんごむし！」 あたりまえぼうさい
 忘れちゃいけないー「あたまをまもる！」 あたりまえぼうさい
 逃げるときに大切なのはー「くつ！」 あたりまえぼうさい
 海の近くで地震がきたら「とにかくにげっぺ！ (石巻の言葉)」
 あたりまえぼうさい
 どこににげっぺー「はやく！たかく！」 あたりまえぼうさい
 「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」「命を守る」
 あたりまえ あたりまえ あたりまえぼうさい♪
 (ちゃんちゃーん) 「がんばっぺーす！！ (宮古の言葉)」

※株式会社吉本音楽出版(作家及びCOWCOWさん)の許諾を得て替え歌を作成しました。左記の歌詞であれば「あたりまえ体操」として、他の学校等でも使えます。ぜひ、みんなで♪♪

【あたりまえぼうさい！の歌詞とパーティションの絵で絵本作り】



【新しいデザインのパーティション 材料を無駄にしない→幼稚園サイズのパーティション】



(自由記述: 3/3)